

# オンライン昆虫標本作成

ドルトン東京学園中等部・高等部  
小泉 堇 (中3)

## 1. 背景

私が通うドルトン東京学園は、「ラボラトリー」という探究に専念できる時間が授業後に組み込まれている。また、オンライン授業になってもラボラトリーは継続される。その1つに、理科の教員による「オンライン昆虫標本学」が開講されていた。昆虫に興味のある私はこのラボラトリーに参加し、一連の昆虫標本の手順を学ぶことにした。

## 2. 方法

### ①準備

自宅から、Zoomを使用し学校とオンラインで繋ぎ、標本を作成した。標本の作成に必要な道具は、あらかじめ家に送ってもらうことで調達した。

### ②採集

自宅の庭から複数匹の昆虫を捕獲し、殺虫瓶に入れて殺した。殺虫瓶には酢酸エチルを含ませた脱脂綿が入っている。1日以上保管する際は冷凍庫に入れた。ただしチョウやガなど鱗粉がある昆虫は、鱗粉を極力落とさないために神経が集まる胸の部分で指で圧迫して殺した。保管には三角紙を使用した。

### ③軟化、展翅、展足

冷凍庫で保管していた昆虫には、60°C程度の少し冷めたお湯を使って、軟化と呼ばれる関節など体を柔らかくさせる処理を施した。また、展翅・展足をするときには、昆虫を発泡スチロールの上に置き、昆虫針(虫ピン)を昆虫の適切な位置に刺し、全体のバランスを見てまち針を使い昆虫の形を整えた。(図1)チョウなどの展翅を行う場合、鱗粉が落ちることを防ぐために展翅テープで翅を挟み、その上からまち針を刺した。また、バッタやコオロギには、内臓を取り出す操作を行った。



図1 昆虫針を刺すときのスクリーンショット

### ④乾燥

展翅・展足が完成したら、乾燥させるためにシリカゲルを入れた密閉できる箱に、針で固定した状態で発泡スチロールごと入れ、1週間置いた。

### ⑤標本完成

乾燥した昆虫のまち針を取り、標本箱に発泡スチロールを敷き、昆虫を配置した。また、それぞれにラベルを記入し、各昆虫の付近に刺した。最後に腐敗防止のため標本箱に防腐剤を置いた。

## 3. 過程と結果

今回採集した昆虫は以下の5匹である。

キアゲハ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、アオドウガネ、アオカナブン

採集した昆虫は、チョウ目、バッタ目、甲虫目に属する種であり、それぞれに適する標本作成を行った。

以下に展翅・展足のようすを写真で示した。(図1)



図2 展翅・展足のようす

また、標本箱に入れた写真を以下に示した。(図2)



図3 標本箱に入れた昆虫標本 (ラベルなし)

## 4. 今後の展望

今回、「オンライン昆虫標本学」を受講し、昆虫標本の作成方法を知ることができた。エンマコオロギ、ショウリョウバッタと、アオドウガネも内臓を取り出し、少し興味が湧いたため、これから複数の昆虫と、重量や役割等の切り口から比較をしたい。